

## 桐生市議会 議会運営委員会 行政視察報告書

視察都市	愛知県犬山市（人口 73,987 人）
視察日時	令和元年 10 月 16 日（水） 午後 2 時 30 分 ～ 午後 4 時 30 分
視察項目	議会改革の取り組み「市民フリースピーチ制度」について

### ◎視察概要

#### （1）説明要旨

犬山市では「市民参加と議会機能向上」を目標に議会改革の取り組みを平成 22 年から開始した。視察の際には犬山市議会の議会運営委員長と議会運営委員が参加し、説明を受けたのち意見交換を行った。

平成 22 年 5 月 議会改革推進委員会を設置 当時の議員数 22 名  
議会基本条例の制定（平成 23 年）、議員人事・組織の改革（議長任期 2 年）、委員報酬の廃止などを行ってきたが、議会の権限を最大限に発揮できる議会にするために次のような取り組みを開始した。

～市民参加の取組として～

#### ○市民フリースピーチ制度

市民が議場で犬山市政に関する発言を 5 分以内で議員（議会）に対し行うものであり、発言内容については議会として対応している。

#### 【開催時期】

会期中に行うこととし、3 月と 6 月定例会開催日の午後 6 時半から、9 月定例会では日曜日の午前 10 時に開催した。現在まで 3 回開催し、合計 20 名が発言した。

#### 【発言者】

市内在住、在勤、在学ならだれでも可能。1 回に 7 名定員とした。

#### 【発言後】

質疑応答は行わないが、全員協議会で対応を協議し、協議した結果を発言者へ連絡する。

## 【成果】

第2回市民フリースピーチ開催後、市へ申し入れ等を行った。

## 【募集】

市民フリースピーチ（5分間発言）申込書を、議長あてに提出、申込みが多い場合は抽選により決定する。

犬山市議会では、市民フリースピーチ制度のほか、下記の取組を行い、議会改革を推進しています。

### ○女性議会

平成30年2月14日に開催。公募で「一日女性議員」を募集し、模擬議会を開催。一般質問も実施した。

### ○オープンドアポリシー

気軽に議長室に来て議長と会話ができる。

### ○市民との意見交換会

毎年、会場ごとにテーマを決めて意見交換会を開催。また、著名人の講演会なども開催している。市議会だよりやHPでフィードバックを行う。

### ○親子議場見学会

平成28年から実施。これまで14組が参加。子供と若い世代の親が来てくれる。選挙への関心の高まりを期待している。

### ○議員間討議

委員会付託の次の日に全員協議会を開催し、議員間討議を行う。付帯決議や市への申し入れなどを行う。小さなことでも議会が成果を出し続けることが大切。

### ○議員間討議から政策立案・政策提言へ

議員間討議を行うことで市議会からの提案がより活発になる。

## (2) 主な質疑応答

Q：市民に対する返答をしっかりとしているが、内容がそぐわないものはどの部分でフィルタリングしているのか。また、議員間討議において前向きで建設的に行われるようにはどのようにしているか。

A：申込書の段階において議長及び副議長で事前チェックをしているが、議員批判などや通告していないこともあるが、その場で議員が理解できない部分は質問する。

また、議員間討議の中で主義主張が違う場合が多々あるが、個人や会派、委員会ではどのように対応できるかを考える。全く意見の一致を見ないこともある。やれることは何でもやろうと思っている。個人議員の強い思いで動く場合もある。

Q：テーマ決めのアドバイスの打ち合わせはどのようにやっているのか。また、5分の発言で結論まで出しているが、どのような流れで行っているのか。

A：文書一枚でチェックし、事前にレクチャーはしていない。各団体の代表が出てくる場合があるがしゃべりたい方が出てくるので話の上手な方が多い。また、前の市長が出てきたり、前の助役が出てきたりするがさすがにそれはいけないのではないかと思っている。

Q：議会中に日程を組むのは大変と思うがどのようにされているか。また、市民の思いを公表するのは大切であるが、これまでどのような要望項目が多いのか。

A：フリースピーチの提案をする場合、議員の間では反対もあったが、意見交換などを通じて、本会議場で実施しても問題ないのではないかという意見が一致した。日程調整については、日程的に9月議会は大変であったことから今後検討する予定である。

また、テーマに関する類似性はバラバラである。批判やクレームの問題は意見交換会から始まったが、テーマを決めて試行錯誤を重ねてきた。そうした下地があって市民の皆様は批判の場ではないことを理解していただいている。

Q：各種団体との意見交換会はどのように行っているか。

A：難しい手続きはない。老人会や民生委員などは各委員会で実施し、懇談会を行っている。

Q：当局や議員に対しての批判が多く却下した場合はないか。また、子供の見学会は子供が発言するのか。フリースピーチの参加者の男女比はどのようになっているのか。

A：ユーチューブで生中継している関係から、個人名や企業名などが入る場合は事前に本人に知らせた時点で辞退された事例はある。親子見学会の場では子供の質問に対し、議員が答えている。フリースピーチ参加者は男性が圧倒的に多い。女性は女性議会の中だけでフリースピーチはしていない。

Q：議員間討議の中で言いづらいことや遠慮してしまうことはないか。

A：以前は各派代表者会議での対応だったが議員20人しかいないため、全員で議員間討議になった経緯があり各議員が自由に討論している。

Q：会派、個人、委員会などのそれぞれのレベルで市民の皆様に対し結論をどこまで追いかけているのか。また、どのようなプロセスで行っているのか。

A：議会に届けば何とかするという思いを大切にしたいが、どうにもならない問題もある。一般質問をすることで解決策につなげることもある。

Q：フリースピーチの傍聴者へのアンケートは実施しているか。

A：特にアンケートは実施していない。傍聴者は傍聴席に入りきれないこともある。また他市の議員も傍聴に来ている。

### （3）参考となる点及び課題

犬山市ではフリースピーチにおけるフォローアップをしっかりと行っており、全員協議会の中で議員間討議が行われ、必要に応じて執行部側への申し入れや、議員の一般質問などで実現を求めていくなど「聞きっぱなしにしない」という仕組みが整っており、市民の声を市政に届けるということに対する市議会としての意識の高さがうかがえる。また、フリースピーチは批判、要望の場ではなく建設的な意見を発表する場として機能している点は大変参考になった。

さらに、フリースピーチ以外の議会改革の取り組みは「親子議場見学会」「一日女性議員」の取り組みなど、市民に議会を身近に感じてもらうための取り組みを積極的に行っている点は見習うところであり、各派代表者会議ではなく議会日程に全員協議会（年14回実施）を組み込み、一般質問や上程議案の内容等を協議する議員間討議を行うことや議案ごとの討議、討論、表決の方法は桐生市でも議会改革を行う上で非常に参考になった。

### ◎視察成果による当局への提言または要望等

桐生市でフリースピーチを行う場合、通告内容の審査での検討研究の余地があるが、市民の意見を拝聴した後のプロセスとして桐生市議会においても特別委員会、議会運営委員会において議論を活発化させる必要がある。

また「女性議会」などの開催により女性にとって住みやすく暮らしやすいまちを目指すために女性管理職で対応するとのことで桐生市でも取り入れていきたい。

議員間討議の促進も桐生市に反映していきたい。形式だけでなく市民意見の反映に実態をもたせ、市民の皆さんに実感してもらうために、多くの努力と創意工夫、挑戦と修正の繰り返しが必要である。

## 桐生市議会 議会運営委員会 行政視察報告書

視察都市	愛知県安城市（人口 189,725 人）
視察日時	令和元年 10 月 17 日（木） 午前 10 時 00 分 ～ 午前 11 時 30 分
視察項目	議会 ICT 化の取り組みについて

### ◎視察概要

#### （1）説明要旨

視察項目の説明を受ける前に、議会 ICT 化の取り組みを地元テレビ局が作成したビデオを視聴した。

#### ○ICT化の目的

- ・ペーパーレス化を推進
- ・議会の見える化 大型スクリーン導入で説明資料の電子化
- ・危機管理体制の強化 災害情報の共有化 議会BPC
- ・議会の活性化・議員の資質向上

#### ○ICT化の狙いと課題

- ・行政資料がすぐに調べることができることが最大のメリットである。
- ・会議中などは自動で資料を変えてくれるので便利である。
- ・厚い資料を持ち歩かなくても良い。
- ・タブレット化をしてスピード感のあるフィードバックや要望事項についての取り組みができる。

#### ○導入までの経緯

- ・導入までICT化に対する議員の意識調査を行った。
- ・当局側では情報の共有についてあまり前向きでなかったため議会側からまず初めに導入。
- ・導入前に年間1万枚の紙を使用→ペーパーレス化の必要性に伴い、平成27年

に議会内にプロジェクトチーム発足。実施に至るまで事務局が中心となり毎日のように研修を開催。1か月の間にすべての議員が使えるようになった。

#### ○効果

- ・ 定量効果：作業の効率化
- ・ 定性効果：市民と繋がる
- ・ 議員活動の中で写真などを使って市民に説明することができる。
- ・ 議会ホームページのリニューアルを行い、リニューアル後のアクセス数は2.2倍になった。
- ・ 電子採決もタブレットで対応できる。

#### ○議会改革の取り組み（議会の見える化が必要になった時）

- ・ 平成25年議会報告会を開催。
- ・ 平成26年議会改革検討委員会で議論が始まる。
- ・ 平成27年議員定数が30人から28人に変更。  
全員協議会よりタブレットを導入、プロジェクトチームの発足

#### ○導入から現在までの具体的な流れ

- ・ 導入基本計画を作成  
グループウェアの選定、電子会議システム、タブレット端末、Wi-Fi環境の整備、大手企業よりの使い易さ、東京インタープレイのサイドブックに決まった。サイボウズでスケジュール管理を行う。
- ・ データ定額 3年3か月のレンタルプラン 故障修理は無料 紛失も2回まで無償対応 月額4,162円（うち政務活動費2,000円 公費2,500円）  
導入費用460万円 ランニングコスト310万円
- ・ 広く議員活動に使うことが前提でルール決めを行った。  
必要最低限の約束事を取り決め、市民への説明は自己責任で行うこととした。  
「安城市議会の情報通信機器使用基準を策定」  
紙とタブレットを併用し、議案書などは各会派に一部のみ配布するほかはタブレットを使用。費用対効果：平成29年度実績 年間222万円の削減に成功。

#### （2）主な質疑応答

Q：サイドブックス 利用規約と違反罰則規定については。

A：現在まで大きくルールを逸脱したことはない。何かあった時は議長判断になると思う。

Q：改選ごとに再契約するときはどこで契約しているのか。

A：見積もりはソフトバンクと AU で一般競争入札を行っている。現職は同じタブレットを引き続き使用し、新人議員は新しいタブレットを支給。2年縛りがあり、違約金の予算取りがしていないので今でも AU を使用している。

Q：事務局が使えないといけないと思うがどのような状況か。

A：タブレット導入時には事務局は全員使用できた。業者に使い方を教えてもらうこともある。事務局貸与は6台で行っている。

Q：電子採択の押し間違いは

A：議長から、押し間違い、押し忘れはありませんかと声をかけるなどして防止している。バグが出てしまい、欠席や棄権になってしまったこともある。

Q：保存はクラウド上なのか。また、自分のタブレットに情報が抜き出し可能なのか。他人のタブレットはどこまで使えるのか。

A：年間1G使用できる。主要なデータに関しては導入してからのすべてをDVDにして渡した。紙で欲しい場合はご自分でプリントしていただくことになっている。

### (3) 参考となる点及び課題

安城市の ICT 化の取り組みは「市民と繋がる！議会・議員の見える化！活性化！」を進めるための取り組みであり、今までの議論は事務の効率化やペーパーレス化という部分に焦点が絞られていたが、検討や議論の大前提にそれらの先に何を指すかという根本がしっかりと共有されていた。若い世代とつながるためには避けて通れない課題と考える。

電子掲示板、電子メール、グループウェアの導入、電子会議システム、タブレットの貸与システムなどの導入費用について、及びペーパーレス化に伴う効果として70.4%、年間222万円削減の費用対効果は非常に参考になった。

また、電子機器に馴染みのない世代の理解や、操作技術を学ぶために事務局職員による繰り返しの丁寧な説明を重ねていったことは感心するとともに、忍耐力への敬意を感じた。導入時点での新人議員への研修なども考えると事務局の人件費負担は一定程度見込まなければならない。

その実用性としてタブレットで議会資料をいつでも参照できること、外出先でも市民からの問い合わせに活用できたり、現場での状況写真を撮影し議会で示したりと活用方法が多岐にわたっている点は参考になる。

◎視察成果による当局への提言または要望等

議員に配布するタブレット端末の使用については、議会外でも積極的に使用しており、また、費用負担は公費と政務活動費の折半となっていることから公私の区別を「議員側の説明責任」というシンプルではあるが適切に使用されている。

「何のための ICT 化なのか」という根本的な目的を桐生市でも議員、事務局、職員全体に広げて新庁舎建設の計画とともに進めていくべきである。

安城市の例をもとに桐生市でも公共施設のあり方等調査特別委員会の中でプロジェクトチームを立ち上げるか、各派代表者会議の中で ICT 化プロジェクトチームを発足させ、ICT 化に向けた検討や議論を始めるべきである。新庁舎建設に合わせて、導入に向け検討を始めることがベストと考える。

議会内での Wi-Fi 環境の再整備と合わせ電子採決システムをタブレットで行えるようにし、大がかりな設備投資を避け、経費削減につながる導入を期待する。